「県民会議からの提案」概要版リーフレットのストーリー検討について

１　目的

第20回県民会議にて、概要版リーフレットの作成にあたりワーキング（以下ＷＧとする）等で検討するという方向性になった。ＷＧでは、「『県民会議からの提案』の概要を伝える」ということを基本とし、提案概要を伝えるにあたり、どのように対応すれば良いか、どう気づいてもらえば良いかということを、編集作業として検討することとした。読むことにより、「心のバリアフリー」を含め、バリアフリーの考え方を広く一般に理解して頂くことにつながるようなリーフレットの作成を目指している。

２　第20回県民会議での主な委員意見と対応方向

* ストーリーが障害の社会モデルから乖離している。
* 何によって障害が作られているのかということが書かれていないため、社会モデルが伝わらない。検討のためＷＧを立ち上げ、編集作業を行うこととなり、「『県民会議からの提案』概要版リーフレット」作成に係るストーリー検討ワーキングを立ち上げ、現在検討中である。

３　ＷＧでの検討内容

　　「提案書の概要版リーフレット」を作成する上で議論のあった、障害の社会モデルを反映し「自分事としてとらえることができ、気づきにつながるようなストーリー」を検討する。

４　リーフレットの内容

* 「みんなで創るバリアフリーの街づくり～県民会議からの提案～」の概要（取組テーマ等）を伝えるリーフレットとなること。
* それを基本とし、提案概要を伝えるにあたり、どう対応すれば良いか、気づいてもらえば良いか、という部分を編集作業としてＷＧで検討する。
* 即ち、概要版リーフレットを読むことが「心のバリアフリー」を含め、バリアフリーの考え方を一般に理解して頂くことにつながる、リーフレットとしたい。

５　ＷＧ実施状況について

|  |
| --- |
| （第１回ＷＧ）  日時　　令和４年２月10日（木）9時00分～11時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  〇リーフレットに掲載する内容についての確認を行った。  〇リーフレットを作成する上で大切にすべきであると考えるポイントについて議論し、主に以下の意見が挙げられた。   * すべての人の人権は守られるべきものであり、尊厳を持って対等に互いに接するということ。 * 誰でも当事者になり得ることであり、決して特別なことではないということ。自らが無関係であると思わないでほしい。 * 自らが当事者であると気づくこと。 * 他者を他者として理解し、尊重すること。 * 自分も他者も大事であるということをお互い認め合うこと。 * 福祉が自分を含め全員のものであるということ。   〇誰に向けてのリーフレットなのかについて整理し、一般県民に向けて作成し、なおかつ子どもも分かりやすいような内容にするべきであるという意見が挙がった。 |

|  |
| --- |
| （第２回ＷＧ）  日時　　令和４年３月２日（水）9時00分～11時00分  方法　　オンライン（Zoom）  出席者　中野委員、関根委員、吉富委員、和久井委員、大原座長（オブザーバー）  概要  〇リーフレットとホームページの役割  　リーフレットはわかりやすくすることが大切であるが、県民会議に参加している当事者の声も大切にする必要があるので、リーフレット以外にホームページも活用することが合意された。  〇ストーリー案  　議論の結果、以下の３つのストーリー案のいずれかでまとめていくことが合意された。  ①案１：怪我をした女の子「みなちゃん」を主人公としたストーリー  　例えば、勢い余って階段から転げ落ち、かかとを複雑骨折して3か月ほど車いすや松葉杖の生活を余儀なくされることになった「みなちゃん」が街で様々な困難さに気づく物語。  ②案２：擬人化した街が主人公のストーリー  　例えば、エレベータを擬人化した主人公にし、車いすやベビーカーの人を乗せることが役割なので、元気な人が我先に押し寄せてしまって乗せてあげられないことを嘆いたり、「階段を使える人は、階段を使って！」と語りかけていく物語。  ③案３：案１と案２の折衷案  　例えば、「みなちゃん」が怪我をしたときに、エレベータ等の街の設備とお話が出来る特殊能力を持てるようになり、エレベータ等と会話をしていくという物語。  〇ストーリーで取り上げたい大切な事項（順不同）  ①障害の社会モデル。何が障害をつくっているかという問いかけ等を通して、社会が障害を作り出していることに気づかせたい！　また、元気な人が障害をつくっている場合もあることやマナーや「やさしさ」だけではないことを伝える。  ②SDGsの「誰一人取り残さない」というスローガン。多様な人が参加できる社会の重要性も含めて伝える。  ③多様な人が社会の中にいることと共に、多様な人が社会参加することの大切さ。  ④「心のバリアフリー」：やさしくすることや悪気がなければ良いわけではないことに気づけるようにする。例えば、点字ブロックの上の自転車を置くことが、バリアをつくっていることになっていることに気づけるようにする。  ⑤多目的トイレ（バリアフリートイレ）の利用について。多目的ではなく、そのトイレでなければ使えない人がいることに気づいて欲しい。  ⑥自分事としての気づき。バリアの問題は、他人事ではなくなく、自分事であり、いつ自分がバリアに遭遇することになるかわからないし、他人のバリアになるかもわからないことに気づくこと。  ⑦県民会議で大切にしてきたことの説明。県民会議では、多様な人が参加して、一緒に考え、計画の段階から一緒に共生社会を作成していくという取り組みを行ってきた。また、当事者と一緒に街点検等を行い、少しでもバリアをなくしていくためのスパイラルアップの取り組み（PDCAサイクルに基づいた取り組み）を行ってきた。さらに、当事者の意見を聞く際には、「聞こえない言葉」を聞く姿勢が大切。声なき声を聞き続けることで、誰一人取り残すことのない社会を実現したいと考えている。 |

|  |
| --- |
| （第３回ＷＧ）令和４年４月～５月実施予定  〇メーリングリストで検討を行う他、必要に応じてＷＧ回数増も検討  〇各自で３つのストーリー案をもとに簡単なシナリオを作成したものを持ち寄り、内容について議論する。 |

* 全体のスケジュールとしては、令和４年度上半期中にリーフレットの完成を予定している。